

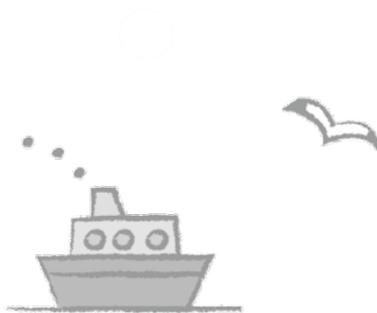
第 13 回

桜美林大学留学生日本語スピーチコンテスト

日時 2014年6月28日（土）

会場 桜美林大学国際寮大ホール

文集



2014年

桜美林大学日本語文化学院（留学生別科）

目次

まえがき

日本語スピーチコンテストに寄せて

(発表順)

李 思慧 (台湾)

鄭 韻詩 (中国)

安 娟妮 (中国)

ラズニック サマンサ (アメリカ)

林 平成 (中国)

邵 佳妮 (中国)

ホストファミリーとの出会い | 6

無駄なこと | 8

一人旅 | 12

誰のためにすることでしょうか | 15

日本人に教えてもらったこと | 18

私が見つけた日本 | 21

ショート ゲイブリエル (アメリカ)	言語の大切さ	22
伊 樺 (中国)	コミュニケーション	24
黎 艶鳴 (中国)	おふくろの味	27
サンジャー アンフチメグ (モンゴル)	コミュニケーションギャップ	30
王 震 (中国)	母国へのお土産	33

講評と賞の概要		36
---------	--	----

まえがき

桜美林大学日本語文化学院(留学生別科)主催の、第十三回桜美林大学留学生による日本語スピーチコンテストが二〇一四年六月二十八日(土)、桜美林大学国際寮大ホールで開催されました。別科生四名、交換留学生五名と学群生二名の、計十一名の留学生がスピーチを行ってくれました。国や地域別では、台湾とモンゴルが各一名、アメリカ二名と中国大陸七名になります。

審査員は学群や別科の先生のほかに、ここにこ星ふちのべ協同組合の萩生田さんが担当してくださいました。心より感謝申し上げます。

期末試験も近いという忙しい時期でしたが、十一名の留学生は一所懸命準備に取り組んでくれました。一千字以内という制限があるので、決して長大なものとは言えませんが、皆さんの必死な努力はスピーチの時の真剣な態度とともにひしひしと伝わってきました。スピーチの内容も素晴らしく、異国日本で暮らす若い留学生の皆さんのみずみずしい感性と感動に触れ、深く感動を覚えました。また、皆さんの日頃の学習の成果でもある日本語を聞くことができたのも、この上ない喜びでした。

より多くの皆さんとこの感動を共有できればと思います、第十三回桜美林大学留学生による日

本語スピーチコンテストの文集をお届けさせていただきます。国際交流に少しでも資するところができればと願っている次第です。

桜美林大学日本語文化学院（留学生別科長）張 平

日本語スピーチコンテストに寄せて

桜美林大学 副学長 李 光一

桜美林大学日本言語文化学院が主催する留学生日本語スピーチコンテストも一三回を数えるに至りました。この間、本学で学ぶ留学生のみなさんがさまざまなテーマで意欲的なスピーチを披露してくれました。

スピーチを拝聴して一番に気づかされる点は、やはり論点の新鮮さにあります。わたしたちがごく「当たり前」のこととして改めて興味をもたないような事柄にも、全く違った観点からストーリーを組立てていく「想像力」に毎回新鮮な驚きを覚えます。ドイツの社会学マックス・ウェーバーは『古代ユダヤ教』という本のなかで、ある文化圏の外部から来た人は、その文化にドップリと浸っている人よりも何ごとにも好奇心をもち根源的・原理的に考える傾向にあるということを言っていますが、このスピーチコンテストの魅力はまさにそこにあると思います。それぞれの生活圏を離れ、深く考え、自分自身の言葉で一生懸命つくってくれたスピーチは、私たちに文化交流の意義を鮮明に指し示してくれます。

本学の学生さんはもちろん、教職員のみなさんにも、文化間の交差点で誕生した珠玉の作品をじっくりと読んでいただきたいと願っています。

ホストファミリーとの出会い

交換留学 李 思慧

交換留学で初めてホームステイを体験しました。当初は、「母語も文化的背景も異なる人々と知り合いになりたい」、「日本語能力を上達させたい」という気持ちから、ホームステイを決めました。しかし、外国で、知らない人と一緒に四ヶ月間どうやって生活するか全く分かりませんでした。ホストファミリーはどんな家族だろう。どうやって一緒に生活するのだろうかという疑問がたくさんありました。そして、来日前にホストファミリーから送られたメールには生活のルールがたくさん書いてあったので、怖そうな家族だと思っていました。緊張と不安でいっぱいでした。

三月三十一日の夜、先生が案内してくれて、ホストファミリーと初めて対面しました。私はずっと教室の入口を見て、緊張していました。すると、突然、ある女性が私の側にきました。彼女は私のホストファミリーのお母さんでした。家に着くと、お母さんは優しく説明してくれました。だから、すぐ安心することができました。お父さんも笑顔で迎えてくれて、心配りをしてくれて、感動しました。

家には、三匹の可愛い犬がいました。初めて見た時、その犬たちが激しく吠えるので、と



でも困りましたが、そのまま日本でのホームステイが始まりました。

四月二十日に、ホストファミリーはウェルカムパーティーを開催してくれました。お婆さんとお母さんが美味しい日本料理を作ってくれて、お爺さんとお父さんが可愛い踊りを披露してくれました。また、日本料理と台湾料理とを、味や食卓マナーなどから比べるなどして、日本での生活を理解したり、話をしながら日本についての様々な知識を習ったりしました。皆さんと楽しくお喋りしたあとは、ゲームをやりました。本当に楽しかったです。このことは、日本留学の中でいい思い出として、一生忘れることはないでしょう。

最近ではホームステイの生活にも慣れてきました。優しく綺麗なお母さんと、冗談が好きでかっこいいお父さんにはいつも感謝しています。寒い時には、服を貸してくれたり、毎日美味しい料理を作ってくれたりして、本当に親切にしてくれます。まるで、自分の両親みたいですね。最初のころの不安や寂しさは全て消えました。ホストファミリーと出会って、本当に幸せだと思います。そして、ホストファミリーのおかげで、充実した留学生活を送ることができて、自分自身も成長することができました。これまでいつも私のことを支えてくれたホストファミリーに感謝しています。これからもホームステイの生活はまだ続きます。毎日楽しく過ごして、様々な経験をたくさん重ねていきたいと思っています。

無駄なこと



留学生別科 鄭 韻詩

皆さんは、「結婚」ということをどう考えていますか？ 私はこの前、電車の中でこんな話を耳にしました。

「ねね、洋子のこと、聞いた？」

「ううん、なに？」

「一月に結婚したばかりなのに、半年も過ぎないのにもう離婚になっちゃった！」

「へー！ うそ！ 七年も付き合ってきたんじゃない?!」

「ねー！ 残念だね、無駄な歳月になっちゃったわよ」

この七年は本当に無駄になってしまったんですか？ 私はそう思いません。最近、大辞泉という辞書で「結婚」を解釈するおもしろい言葉をいくつか目にしました。もし、良い人に出会って、結婚することになったら、「結婚」とは、これから起きる幸せを二倍に、悲しみを半分にするための契約です。もし正しくない人に出会って結婚してしまったら、「結婚」とは、愛で始まり、やがて憎悪に変わり、感謝で終わるものになります。つまり、正しい人にしろ、正しくない人にしろ、結婚までは二人で支え合いながら同じ道を歩んできたからこそ、結婚

することになったわけでしょう。その中で自分が味わってきたことは豊かな人生体験の一部になると思います。また、たとえ離婚になっても、「ああ、なるほど、自分はこんなタイプとは合わないんだ」と反省することができ、もつと適当な人と出会うチャンスもこれから生まれるのではないでしょうか。言い換えれば、人生には何一つ無駄なことはないということです。

寺田寅彦は随筆集の中で次のように述べています。「順調な人ほど不運な人はいない。いわゆる頭の良い人は、足の速い旅人のようなものである。人より先に人のまだ行かないところへ行き着くことができるかわりに、途中の道端にあるちよつとした肝心なものを見落とす恐れがある」。

また「ホンダ」の創始者である本田宗一郎氏は、生前次のように述べています。「私の現在が成功というなら、それは過去の私の失敗が全部土台作りをしているのである。仕事はおしなべて失敗の連続である。九十九パーセントは失敗の連続であった。そして、その実を結んだ一パーセントが現在の私である」。

私自身を例に挙げます。大学入学試験で第一志望に外れたので、日本語学部に入りました。その時は少し落ち込んでしまいましたが、その失敗を原動力とし、日本への留学を目標にして三年間怠らず勉強して来ました。そしてやっと留学資格を獲得しました。今我が身を振り

返ってみると、あの時から人生には無駄なことはないという信念を持ち、負けず嫌いな人間だからこそ、失敗を成功の種にできたのだと思います。

仮に山登りの時、目の前に二つの道があります。一つは広くて明るく、上へ伸びています。

もう一つは狭くて深く、霧でぼんやりと見えます。こんな時にあなたはどちらを選びますか？もし選んだあとその道を進んでみて、意外とつまらないなら、あなたは後悔するのでしょうか？

実は、どんな選択をしても、私たちはもう、最初からその選択肢に価値を載せているのではないのでしょうか。私は人生には無駄なことはないのだから、去るものは追わず、今考えるべきなのはこの瞬間、この目の前にある生き生きした日々だと思います。物事への考え方が変われば、世界が変わると私はずっと信じています。もし広い道を選んだら、道の終点に美しい花畑が見えるかもしれません。もしその狭い小径を選んだら、謎めいた湖の景色が味わえるかもしれません。そう思ったら、どんな風景が目に入っても満喫できるでしょう。

実は、「人生には無駄なことはない」というより、むしろ何事も無駄にしてはいけないと言わなければならないと思います。人生はあまりにも短いものです。毎日やるべきことをちゃんとやり、悔いのない日々を過ごしましょう。苦は楽の種である。たとえ楽にならなくても、無駄どころか、言葉では表現できない貴重なものがそこに秘められているとは思いませんか。



スピーチコンテストの準備はかなり時間がかかって大変でした。私は優勝を目指してここに立っています。もしそれが叶ったら、この前の準備の時間は無駄にならないでしょう。もし優勝できなかつたら、自分の不足が見つけられ、常に改善していき、今の失敗はきつと今後の進歩の踏み台になると思います。

一人旅

交換留学 安 娟妮

みなさん、こんにちは。桜美林大学で、RJで交換留学生をしているアンケンニと申します。今日は「一人旅」というテーマでスピーチをさせていただきますと思います。よろしくお願ひします。

「一人旅」と聞くと、どのようなイメージを持ちますか。もしかしたら、お金がたくさんかかり、ただの自己満足に過ぎないというマイナスのイメージを頭に思い浮かべる人が多いかもしれません。しかし、私にとつての「一人旅」はそれとはやや違い、精神的な自由を追求する神聖なイメージです。本物の旅人と言われる知り合いのある女性は、もう五十代になりますが、毎年少なくとも一回はヨーロッパ、スリランカ、カンボジアなど、世界各地の様々な面白い場所に旅をします。彼女はお金持ちではありません。家族もいますし、仕事もあり、一般的には一人旅には足手まといと称されるものがそろっています。しかし、仕事の時にはちゃんと仕事をして、子供たちが周りにいるときにはきちんと面倒を見て、そして普段、極めて質素な生活をしています。つまり、彼女は、普段、お金やものなど物質面での追求はほとんどしていません。だから「一人旅」で精神的な自由を追求しているのだと思います。



ところで、なぜ人間は一人旅をするのでしょうか。新井一二三さんという人が書いた『独立、一人旅から始める』という本の中から、私はその答えを見つけました。一二三さんは十歳から一人旅をはじめました。中国を遍歴して、そして中欧に行き、キューバ、ベトナムまで見聞を広めて、カナダに移民もしました。最後には香港で働くことを決め、この本を書きました。一二三さんの東京の友達彼女の貧しさを笑いますが、彼女は『理想のライフは旅行、旅行、また旅行です』だめですか」と答えていました。確かに、一二三さんが言っていた通り、旅をするのは幸せとは何か、自由とは何かを見つけるためだと思います。「とりあえず北海道へ」とか、「今回は東北を回ろう」と、行き先のみを決めて、とりあえず旅に出してしまうという自由を第一に考えるなら、一人旅ほど優れた旅行は考えられないかもしれません。目的がないのでそのつど、面白そうなものにどんどんチャレンジすることができます。また、今年アメリカのオバマ大統領の奥さんが北京大学で「万卷の書を読み、万里の道に行く」というテーマで講演を行い、私も聞きに行きました。「万卷の書を読み、万里の道に行く」は、中国でよく座右の銘としてあげられる言葉の一つです。「万里の道に行く」ということ、つまり自ら旅をして体験するのは、「万卷の書を読む」こと、つまり本から知識をもらうのにも負けないということが、この講演を聞いてわかりました。

一人旅だと自由に行動できるし、趣味の合わない人にも邪魔されないし、何を食べるかも



自分で決められます。それは素晴らしいことだと思いませんか。さらに自ら文化を体験でき、なかなか他人と共感できないことも体験できると思うと、想像しただけでもワクワクしています。実は、旅行の本当の意義は、旅の写真をfacebookに投稿することをはるかに追い越していると思います。しかし、それは多くの人に認識されていないようで悲しいです。

今年の四月から、一年間、日本中を旅行するつもりです。その中には、一人旅ももちろんあります。まずは「青春18きっぷ」を使って節約旅行をして、そして沖縄、またはテレビで人気となった『あまちゃん』の地元岩手県にも行きたいです。みなさん、つぎの旅行は、どこに行きますか？ 一人で旅を試してみませんか？

誰のためにすることでしようか



特別賞

交換留学 ラズニツク サマンサ

私は日本語を三年ぐらい前にアメリカで勉強し始めました。日本語の勉強をとおして、アメリカに比べると日本文化の違う点や特別な点に興味を持ちました。日本に来る前にはその違う点が本当に分かると思いましたが、日本に来てから実は少し違う意味があることに気がつきました。今日、そのような点を発表したいと思います。

今、桜美林大学で日本の映画の授業を取っています。その授業で、今まで古い映画、例えば五十年代やその前の映画を見ました。例えば、『東京物語』や『檀山節考』、『祇園の姉妹』などです。そのような映画に同じ考えがあると思います。主人公の考えはかくされていますが、映画で見ると分かると思います。そのような映画にある考え方は「しようがない」ということだと思えます。

『東京物語』にも『檀山節考』にも悪い状況があるのに、登場人物は自分の身を守るために何もしません。それに『祇園の姉妹』にも悪い状況がありますが、女主人公は自分のことを守るように、様々なことをしようとしても、何も出来なくて、状況が悪くなって行きま

した。



私はそのような映画を見ながら、非常にびっくりしました。そのような考え方とアメリカの考え方は全然違います。例えば、最近映画館で『アメイジングスパイダーマン2』というアメリカの映画を見ました。その映画はヒーローについてのお話です。その映画で主人公はある日、特別な力を持つようになって、その力を皆を守るために使います。すべての人を守るわけではありませんが、多くの人を守りました。最初は普通の人でしたが、最後には特別な人になったお話です。そのようなお話は非常にアメリカ的なことだと思います。どんな人でも、特別になれる夢は人気がありますが、「特別」という言葉には白とも黒とも、マルともバツとも意味があります。

でも、日本文化の中では違うと思います。「誰でも特別になれる」夢ではなくて、「みんな必要」という特徴があると思います。日本のお話の中では、一人の人だけが社会に必要なというわけではなくて、皆も必要で大事な社会なのではないでしょうか。時々一人のヒーローがいますが、その場合ヒーローがヒーローになった理由は、他の人のために、自分のことよりグループのことを大切にしてあげたいからです。

日本文化の中で「しょうがない」というのは、しても何も変わらないと思うわけではなくて、状況を悪くしないように他の人のことを考えているので、何もしないという考え方だと思います。文化の中で、無関心ではなくて、自分のことを考えても考えなくても、社会やグ



ループなどの方が大切ですから、最初にグループのためのおこないをします。それが「しようがない」の本当の意味だと思います。

日本人に教えてもらったこと

ビジネスマネジメント学群 林 平成

私は去年四月に日本へ来まして、私立高校に入学しました。でも、始めは高校のクラスメートとの話にはいつもついていけませんでした。だから、私は日本語に力を入れて学びました。問題集を何冊も買って勉強しました。それで日本語は上手になりましたが、まだ話の内容にはついていけませんでした。でも、今年の一月に中国語を話せる日本人にあつて話をしました。

その人は四十歳の社会人で、母の同僚の男性です。初めてあつたので、最初は話がうまく続きませんでした。時間がたつとおじさんは「素直に話していいよ」と言いました。私はその時素直が何の意味かわかりませんでした。おじさんに「素直は直接話したいことをいうことですか？」と聞きました。おじさんに「違う。話したいことは話せば良い。それは素直。日本人は単純だからそんなに考えなくていいよ」と言われました。私は内気なので、その後もう少し時間がたつてから、おじさんと話を続けることができるようになりました。「最近本を見たら、その中に村上春樹という人がいたんだけど、その人は誰？」と聞くと、おじさんはあきれた顔で「それも知らないの、村上春樹は有名な小説家だよ。あなたテレビを見てい

る？」私が「普段はニュースを見るだけ」と答えたら「それじゃダメだよ、お笑い番組でもいいからもっとテレビを見て。森三中を知っている？知らないといけないの、人に笑われるよ」

最後に「あなた日本語は上手だけど常識が足りない。せつかく日本に来たのだから、いろいろ日本のことをわからないと残念だよ。テレビをもっと見るのが大事だよ、今から五十年前、百年前、百五十年前の日本を調べなさいよ。そうすれば日本人がどんな人かわかるようになる。みんなと話すときももっと続く。留学するならその国のことを知ることが重要だ」私はその時に気付きました。確かに私は日本に九か月ぐらいいたけれど、勉強ばかりで本を見ることはありませんでした。日本と日本人のことは少ししかわかっていませんでした。中国には「読万卷書、行万里路（万卷の書を読み、万里の道を行く）」という諺もあるから日本の生活をもっと楽しもうと思いました。

その後、私は図書館に行つて本を借りて読むことにしました。近代日本の歴史に力をいれて勉強しました。一八六八年、日本は明治維新がおこり、封建社会から中央集権国家になった。その頃、日本は欧米と外交関係も平等ではなかった。欧米に負けない国になるために頑張った。このことから、私は日本人は自分の国に対して関心が高いと感じました。

最近では『世界の果てまでイッテQ』という番組を見えています。それは日本のお笑い芸人



たちが世界のどこかに行って、その国の観光地へ行って遊んだり、罰ゲームをしたりする番組です。森三中の大島さんは太っているから親方と言われていることもわかりました。今は妊娠中なので一時的に親方の任務をやめたそうです。あと『和風総本家』という番組も見ています。それは日本の文化を人々に教える番組です。『和風総本家』から日本にいる多くの職人さんの技術が高いこともわかりました。テレビを見るだけでたくさん日本に関する情報がわかるようになりました。

番組によっては難しいものもありますが、日本のことがだんだんわかるようになりました。クラスメートと昨日の番組のことを話したり、『永遠の0』という映画を見に行ったり、日本の生活を楽しみながら、日本の文化や歴史もだんだんわかるようになりました。一月末に、アルバイトを始めました。バイトでは遅刻をしないことと先輩たちとの関係を重視することに力をいれました。Anime Japan 2014 も見に行きました。それは日本特有な文化の一部として世界の人に魅力をアピールしています。今回は二日間の総来場者数は十一万二千二百五十人となり、目標としていた十万人を十パーセント以上も上回ったそうです。留学に行くことは言語と知識だけではなく、その地域の文化、歴史、思想が分かるようになることです。それは私にとってすごく楽しいことです。

私が見つけた日本

留学生別科 邵 佳妮

日本に来て以来、ずっと日本の風景を撮っています。なぜかというところ、私の趣味は写真を撮ることだからです。でも、プロ用のカメラはまだ買っていません。だから、携帯電話のアルバムに写真がいっぱいです。

日本の風景を撮るとき、いつも気になることがあります。それは日本の空です。誰でも知っているように、日本は森がたくさんある国です。これは空気が中国より日本の方がいい理由でしょう。また、なぜか日本の風景は他の国より特別なかんじがあります。先週市場へ行ったとき、この答えを見つけました。日本人はいつも家の周りで花や木などを栽培しています。どんな家でも必ず庭があります。さまざまな花があるし、道で猫を見ることができし、空を飛んでいるカラスを見ることができません。日本は面積が大きくないから、あちこちに家屋があります。これらが特別に温かなかんじをつくっていると思えました。以上が私が写真を通じて見つけた日本です。

もし写真のサークルに入ったら、もっと日本の風景を撮りたいです。

言語の大切さ



特別賞

交換留学 ショート ゲイブリエル

今日、私は言語の大切さについて話すためにここにいます。言語は生活の一部だと思いません。言語は人間の生活を体験する方法の多くをコントロールします。人間は誰でも異なる文化と心理学を持っていますが、言語は我々が文化を体験する方法です。私たちは、言語を通してすべてを識別します。我々は言語で考えるので、人間の考えと感情を言語で表します。文化と心理学は言語にどのように依存するかを勉強したいので、僕は大学で人類学と日本語を専門にしています。

私たちはホモサピエンスです。でも、私たちの種は二十万年ぐらいしか存在していません。ホモサピエンスは人類の種類の一部だけです。ホモの種類は二百五十万年前に出現した霊長類のグループです。私たちの進化はとても複雑でした。言語は私たちの生残と進化の中で一番重要な側面でした。我々は常に我々の生存のための技術に頼ってきました。しかし、技術を開発することは、相互に通信することによって可能になりました。人間は言語を持っていなかった場合、農場を建設したり、都市を構築したりすることはできなかつたでしょう。

人間は言語で考えています。そのため、多くの言語を知ることが、人は違う考えを持つと



いうことを知ることができます。例えば、『「甘え」の構造』という本を書いた心理学者の土居健郎さんは、彼の本の中で、依存性の解剖学、「甘え」の考え方について話しています。土井さんは、「甘え」は母と子どもとの関係についてであることを説明していました。さらに、彼は「甘え」は日本の心理学の多くの側面の基礎であると述べました。「甘え」という単語は一例ですが、英語には「甘え」という単語がないので、英語と日本語の心理学は異なります。

私は今から冗談を言います。多くの言語を話す人を何と呼ぶのですか？ 多言語の人です。二つの言語を話す人を人は何と呼ぶのですか？ 二か国語の人です。一つの言語だけを話すことができる人を何と呼ぶのですか？ アメリカ人です。僕はアメリカ人ですが、別の言語を学んで様々な方法で考えることができるようになります。グローバル化の時代、英語は世界中で共通語となっています。英語は私たちの市場を助けるかもしれませんが、異なる文化のアイデンティティを脅す場合もあります。我々は異なる言語に私たちの心を開くと、私たちはより良い人になることができます。

ご清聴、ありがとうございました。

コミュニケーション



特別賞

留学生別科 伊 樺

外国の人とのコミュニケーションで大切なのは、相手に対する誠実さや思いやりの心だと思います。

なぜなら、人と人を結びつけるのは言葉よりも心であり、言葉が通じ合えなくても心が通じ合うことはあるからです。逆にいくら相手の人の国の言葉に習熟していても、誠実さがなければ本当の信頼関係は生まれません。私が大学の日本語の先生と初めて会ったとき、先生は何も言わなかったり、笑顔もなかったりしてとても厳しそうな様子でした。でも、そのとき、私は日本語を学ぶ初心者だったので先生と日本語で交流ができないと思いました。でも、私は先生と交流しようという心を持ち、先生に日本語を学ぶ方法を伺ったり、言葉が通じないときは、身振り手振りで説明したり筆談したり、意思や感情を先生に伝えるのは大変でした。しかし、先生は繰り返して練習すれば練習するほど上手になるよとおっしゃったので、先生に対するイメージが変わりました。本当に優しいいい人だと感じました。先生と私のつながりは深まっていったし、友達とも親しくなりました。そして、先生との付き合いは日本に留学してからも続いています。新しい環境に来たばかりで困っているとき日本に留学して

いる先生の教え子を紹介してくださいだったり、ありがたい気持ちをこめて感謝しようと思います。

もう一つ大切なのは、相手の話す言葉が理解でき、その人の国の言葉を使って話せることだと思います。

なぜなら、喜怒哀楽の感情や日常生活の簡単なやりとりだけなら、表情や手振り身振りでも伝えられますが、相手がどのような考えを持っているか、私に何を望んでいるのか、こうした細やかな意志・感情・思想は、言葉抜きには伝えられないからです。例えば海外に行つたとき一番困るのは何か。やはり、言葉でしょう。私も日本に留学したばかりのころ、アパートも借りられないし、病気になつても医者に症状を伝えられないし、とても困つたことがあります。いまでこそ、日本人と日本語で交流し、自分の意見や気持ちを伝えられるようになりましたが、日本で交友関係が広がり、心を許せる日本の友達ができたのも、私が日本語を習得したからだと思います。

確かに、母語習得と外国語学習には決定的な違いがあり、外国語の微妙な意味の差や、その国の文化や習慣を理解することは至難の業です。しかし、誰でも自分の国の言葉で話しかけられれば親近感を感じるものであり、好感を寄せるものです。それは相手から、私、そして私の国の人と心から交流したい気持ちが伝わってくるからです。



従って私は意思を疎通し合うための言語、外国の人に限らず、人と人のコミュニケーションにとって大切なのは誠実さや思いやりの心であり、この心と通じ合う言語が、何よりも外国の人とのコミュニケーションに重要なことだと思えます。

おふくろの味



留学生別科 黎 艶鳴

家族の絆を象徴しているものと聞いて、あなたが真つ先に頭の中に浮かんだのは何ですか？ 私にとってそれは、「おふくろの味」です。何故かというと、これはある番組を見たのがきっかけで、突然悟ったことでした。

中国で『舌で味わう中国』という番組が非常に人気があります。この番組は中国各地の食材とそれを巡る人々の物語を紹介しています。番組の中に、こういう一言があります。「母語を教えるのと同じように、母親は味覚の種を子供の記憶に深く植えました。これは無意識的な本能です。一旦これらの種が根つき、芽を出せば、子供がどんなに遠く親から離れても、この親しい味は子供に家の方向を示しています」。この言葉を聞くと、私は心を強く打たれました。来日して二ヶ月間、中華料理に対する懐かしさがずっと頭の隅から離れないのはこういうことが原因なのではありませんか。中華料理への懐かしさと言うより、「おふくろの味」をたっぷりと満喫したいという気持ちだと思います。

各家庭では母親の料理の作り方によって、人々の印象に残っているこの親しい味は違っていると思います。友だちと寮のラウンジで料理を作る時、同じ材料とやり方で調理しても、



最後に出来て来る味には微妙な差があります。この差は、私たちの子供の頃からの記憶の中に植えてある味覚の種からきているものではないかと思えます。つまり、母が心を込めて作った料理を食べている時、無意識的に母の愛情を感じることが出来ます。私の親しい味に関する記憶は、母の作った料理の味に基づいてどんどん形成されました。この親しい味はいつの間にか私の行動に影響を与えていて、最後に出来上がった料理の味は他人と違っていました。このように、私も母から親しい味の一部を伝承するということが分かりました。

この親しい味の大切さは、旅行している時にしみじみと実感しました。箱根に二泊三日旅行した時、自分で料理を作らないで外食しました。料理は美味しいですが、何だかちよつと足りないという感じがして、あまり食欲がありませんでした。帰宅して自分の作った料理を食べたら、すぐにその気持ちの源が分かりました。親しい味を味わえなかったからです。

私を凧に譬えると、母は凧揚げをする人であり、私たち二人を繋げているのは「おふくろ味」という糸だと思えます。糸が切れると、凧は行ったきり戻ってこないことになります。その上、凧は頼みを失ってしばらくすると地面に舞い落ちてしまうということになります。従って、その糸のような絆は実は私を支えている柱です。

子供の頃は、自分の行動がなんでも親に制限されることが嫌いでした。いつも早く大人になって、親から離れて更に広い世界に向かって飛んでいきたいと願っていました。しかし、



本当に親と離れて一人で人生のために戦っていると、逆に時々家に帰りたいたいという気持ちがあります。実は、大学に入ってから、夏休みまたは冬休みの時、最も期待しているのは母の作った料理です。その「おふくろの味」は疲れを取り除いたり傷ついた心を慰めたりするのに、最も良い物だと思います。その親しい味を味わったら、また元気になって、やることをやり続けて行く力が戻ってくるという感じがします。

皆さん、あなたは自分の親しい味をすっかり覚えていますか？ それはただ味覚の記憶だけでなく、家族との切っても切れない絆です。もし覚えていたら、ずっと大切にしてください。

以上です。ご清聴ありがとうございます。

コミュニケーションシヨンギャップ



交換留学 サンジャー アンフチメグ

日本はアジアの国々の中でも、特に高い経済力を持つ国だといわれています。また、日本という国の発展や、世界から認められる民度の高さは教育の賜物であり、さらに日本における外国人を支援する奨学金は各国に比べると非常に多い、ということは大きな特徴です。しかし、日本での生活は母国であるモンゴルとは違い、さまざまな問題が時間が過ぎるほど発生しています。

では、みなさんは、日本人のコミュニケーションについて、どのように思っていますか？日本に来て、コミュニケーションの違いを感じたことはどんなことでしょうか。日本に来て、まだ一ヶ月も経っていない留学生もいるし、四、五年と長く日本にいる留学生もいますので、みなさんの答えはそれぞれだと思います。また、国によってもその答えは違ってくると思います。

私は今回、初めて日本に長期間暮らすことになりました。はじめは、あまり日本人と深く込み入った会話をすることができませんでした。しかし、最近アルバイトを始めたことによって、多くの日本人と触れ合うことができました。そして、そこで初めてコミュニケー

シヨンの違いを体験しました。それは、アルバイト先での出来事です。私は、アルバイトをしている際、まだ慣れていないので何度も失敗してしまうことがあります。そんな私に対して周囲の日本人の反応は、「大丈夫です」という一言だけでした。相手は、私に気を遣い優しく接してくれていると思いますが、外国人の私からすれば、この対応や反応はとても違和感を感じてしまいました。「何が間違っていたのか」、「どうすれば、失敗せずに済むのか」と、具体的な理由を聞きたいのですが、「大丈夫です」という一言しか返って来ません。もし、同じような失敗をモンゴルでした場合、相手は私に対し、すぐに何が間違っていたのかを指摘してくれます。モンゴル人の失敗に対する態度は、日本人よりもっと正直だと思っています。

このようなことを、コミュニケーションギャップというそうです。コミュニケーションギャップは、日本に留学している私たちにどのような影響を与えるのでしょうか。さらに、日本人と外国人との会話においては、どのような問題がよく起こり、そして、それらの問題を解決するには何が必要なのでしょう。きっと、その背景には日本人独特のコミュニケーション・スタイルが関係しているのでしょうか。また、外国人と会話をする時に、このようなコミュニケーションギャップを感じてしまうのは、言葉が違うだけでなく、文化やそれに対する考え方が大きく違うために、受け取った情報の解釈と想像が、お互いに違ったものになっ



てしまうことが多いためだともいわれています。ですから、コミュニケーションギャップを乗り越えるには、まず異文化を認め、そしてそこで起こりうる問題やその解決方法を、私たち留学生は知る必要があると思います。それでこそ、留学というものを楽しむことができると思います。

母国へのお土産



特別賞

ビジネスマネジメント学群 王 震

日本での留学生活はあっという間に二年半経ちました。日本語、大学の専門授業、日本文化、日本人との触れ合いなどなど、プライベートも含めて、毎日の生活全ては私にとって勉強そのものです。大変忙しいですが、おかげさまで楽しく充実した毎日を過ごしています。

この二年半の間、私は学校の食堂、スーパー等たくさんの所で日本のサービスに触れ、いつも日本のサービスの素晴らしさに魅了されてきました。中国に帰国するときに、お土産として日本式サービスを持って帰って広げたいと常に考えています。

では、日本式サービスのどこが素晴らしいかについて、私なりに考えてみました。まず、丁寧な言葉遣いです。

日本語には、謙譲語、尊敬語、丁寧語のような区別があるので、日本語の会話から、誰がお客さんか、誰が店員か、使っている言葉から分かります。日本式サービスは丁寧な言葉遣いから、お客さんに対して尊敬する態度を表すことによって、お客さんにとって居心地の良い言葉のサービスを提供しています。これは聴覚上のサービスと言えるでしょう。

二つ目は、素敵な笑顔です。

どこのお店に行っても、店員さんはいつとも笑顔で対応してくれます。注文を取るとき、料理を運んできたとき、レジで精算するとき、いつもどこでも笑顔がいっぱい、楽しい雰囲気を感じさせてくれます。料理の良さはお店それぞれですが、素敵な笑顔はみんな同じです。店員さんの笑顔はお客さんに視覚上のサービスを提供していて、お客さんの笑顔を誘うひとつの要因にもなっているでしょう。

そして三つ目は、きめ細かい周囲への配慮です。

日本の礼儀、マナーと公共秩序の良さは世界一だと良く言われています。例えば、公共場所での禁煙、公共の乗り物での携帯電話の使用禁止、ゴミの捨て方等一つ一つ小さなルールでも国民一人一人がきちんと守ろうとしていて、他人に迷惑をかけないように配慮しています。この配慮の心は、日本式サービスの真髄だと私は考えています。人々はサービスを通じて繋がりが、サービスをやる側とサービスを受ける側は互いに相手に対して配慮する気持ちを持って行動しているので、その結果、みんなにとって住みやすい日本という素敵な国ができたのでしよう。

日本式サービスの事例はほかにもたくさんあると思いますが、今日は身近なものを少し挙げてみました。

一方、私の母国の中国では、近代経済の急速な発展の中、利益ばかり追求する傾向が強く、



礼儀とマナーが無視され、サービスの質が落ちて来ているように思えます。そのため、私は中国へ帰国するとき、配慮の心も含めて素敵な日本式サービスをお土産として中国に持って帰って広げたいです。

講評と賞の概要

桜美林大学日本言語文化学院 専任教員 石塚 美枝

今回は学群留学生二名、交換留学生五名、留学生別科四名の計十一名が参加し、「旅」「料理」「映画」「言語」「人とのつながり」などのトピックを通して、日本の社会や文化の発見、自文化や絆の再認識、そして新しい自分との出会いなどを語ってくれました。題材のバリエーションが豊かなだけでなく、どのスピーチも独自の視点から自分の発見や学びを語っていて、楽しく、感心しながらスピーチを聞くことができました。十一のスピーチを聞いて感じたのは、「認め合うこと」「発見」「挑戦」が今回のスピーチコンテストのキーワードではないかということです。

「認め合うこと」については、アンフチメグ・サンジャーさんのアルバイトの経験、李思慧さんのホストファミリーとの生活、そして林平成さんや伊樺さん、邵佳妮さんのスピーチのように、母親の友人の日本人や日本語の先生などの周囲の人々との交流を通してコミュニケーションの違いを感じたことについてのスピーチが挙げられます。コミュニケーションの違いによって、最初は戸惑ったり悩んだりしても、違いの背景を考え、違いを認め合い、お互いを思いやることの大切さに気づいたというスピーチからは、発表した皆さんの悩みや喜

びが生き生きと伝わってきました。また、ゲイブリエル・ショートさんの異なる言語に心を開くことよって人生がより豊かになるというスピーチからは、違いを楽しむことの喜びが感じられました。

また「発見」については、安娟妮さんの一人旅を通して自分を発見するというもの、黎艷鳴さんの母親の料理の味を思い出して料理から家族の絆を再認識したもの、サマンサ・ラズニクさんや王震さんの日本映画や日本のサービスをを通して日本人の考え方や日本の文化の背景を発見したというスピーチが挙げられます。どのスピーチも、体験談や例、引用などをわかりやすく取り上げてスピーチに盛り込み、聴いている人たちに新しい視点を教えてくれました。

そして「挑戦」ですが、優勝した鄭韻詩さんの「無駄なこと」のスピーチが、まさに挑戦をテーマにしたスピーチだと言えます。たとえ失敗しても、何かに挑戦したことは無駄ではない、その経験を生かしてより高いところへ行こうというスピーチは、表情豊かで明朗な語りが加わり、聴いている人に勇気を与えてくれました。また、日本語が初中級レベルの学生が、自分のレベル以上の語彙や表現を使い果敢にスピーチに挑戦してくれたことも、今回とても印象に残ったことでした。それだけでなく、日々の授業やアルバイトの合間にスピーチの準備をし、緊張感の中で当日スピーチに臨んだことは、今回参加してくれた全員にとって

とても大きな、有意義な挑戦であったと思います。

今回もう一つ感じたことは、この素晴らしいスピーチを日本人学生にもっと聴いてもらいたいということ。この十一のスピーチには日本人学生が聴くべきことが詰まっています。次回はもっと多くの学生に聴きに来てもらい、留学生の声に耳を傾けてもらいたいと思います。また、今回聴きに来られなかった人たちには、ぜひこの文集を繰り返し読んでいただきたいと思います。

参加者の皆さん、参加してくれてありがとうございました。そして、審査員を務めてくださったリベラルアーツ学群・張利利先生、基盤教育院・山下こずえ先生、留学生別科・國府田直美先生に御礼申し上げます。ありがとうございました。

次回も留学生の皆さんのスピーチを楽しみにしています。

第13回 桜美林大学留学生日本語スピーチコンテスト 文集

2015年2月12日発行

桜美林大学日本言語文化学院（留学生別科）

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1

TEL : 042-704-7041 FAX : 042-704-7033